

平成27年度 第1回長浜市定住自立圏共生ビジョン懇談会

- 日 時 平成27年12月18日(金) 午後3時00分～4時15分
- 場 所 長浜市役所 西館1階 多目的ルーム1
- 出席者 (委 員) 石井座長、川村委員、桐山委員、西村委員、岸本委員、手操委員、
杉本委員、伊藤委員
(事務局) 総合政策部長、総合政策部理事兼総合政策課長、
副参事、主事
- 欠席者 (委 員) 北村委員、川越委員
- 内 容 以下のとおり

- 1 開会
 - 2 市長あいさつ
- } 省略

3 議 事

(1) 長浜市定住自立圏構想の概要と共生ビジョンの変更について【資料4、5】

○事務局説明(省 略)

【意見及び質疑等】

■長浜市定住自立圏共生ビジョンの変更について

委員 滋賀県全域に病棟が整備されていない状況にあるが、湖北地方の状況についてはさらに深刻な状況にある。国は、医療圏の中で解決するようとしているが、県はそのような考えではない。寝たきりや在宅看護が必要な場合に、他の圏域に依存するといったことにならないよう、担当課と調整して県に意見していただきたい。

委員 昨今、育児をしながら働くことを希望する母親が増えている。市内のある事業所では、介護士が5か月の乳幼児を同伴出勤し、高齢者の方がいる部屋にベビーベッドを置き、ボランティアや周りの職員がその乳幼児を見守っているが、様々面に対応に限界があることから、職員配置を増やすなどの配慮をする必要がある。そのため、子育て中でも社会とつながりたい思いのあるママさん達の人材バンクを活用し、子ども達の見守りに来ていただくようお願いした。

本気で働きたいと思っている母親を支援する仕組が、必要である。暮らしやすさと働きやすさをアピールできる市となるよう、今後の施策について検討いただきたい。

座長 働く場と子どもを預ける場の両方が必要ということか。

委員 両方である。例えば、他人に子どもを預ける事について、不安に思う母親もいる。そういった場合に、自分の代わりに子どもを見守ってくれる母親仲間に対し、給料が支払われる仕組などがあればいいと思う。

座長 民間に対して市がどう支援していくかという話になる。

委員 市がバックアップしていただければ、大きな前進になる。例えば、子育て支援課が実施する「赤ちゃん先生」についても、全てボランティアとするのではなく、交通費などの支援が多少なりとも必要である。

事務局 民間の担い手がいてくださることを前提に、支援体制の仕組づくりについて、検討するよう担当課に伝える。

委員 キヤノンの工場ができた際に、長浜市で住む場所が確保できなかったことから、社員が彦根市などへ転出した。南部地域への人口流出の食い止め策が田村駅、高月駅の 2 つの駅周辺整備事業になるかと思うが、概要を説明いただきたい。

事務局 市内の住宅事情については、民間のアパートなどは余裕のある状況であるが、新築を考えた際には、土地利用の制限等もあり、必ずしも十分に供給されていない状態である。転出者の転出先を詳しく見てみると、隣の米原市も長浜市同様に市全体で流出が進んではいるが、旧近江町区域ではまとまった宅地分譲があり、そちらに人口が流れている。また、彦根、能登川、草津などの県南部地域が主な転出先となっている。個別調査までは至っていないが、土地価格の影響もあると思われる。南部地域は土地の区画が小さいことから、総支出額が低く抑えられ、通勤の便も良いという利点がある。長浜市においても利便性の高い駅の周辺に人口の受け皿を作る必要があると考えているところである。過去、旧町時代に、県の公社が木ノ本駅の北側に 30～40 区画程度を分譲したが、既に完売している。したがって、高月駅周辺については、高月中学校跡地を居住スペースとする予定である。もう一つの候補地は田村駅周辺である。ある程度のエリアについて市街化を進めており、居住スペースの整備に向けた計画を策定中である。

委員 事業費については、市民目線となっているものなのか。また、その事業が、本当に市として必要なものなのかという精査はされているのか。

事務局 事業については、既に現在展開している事業の中から、定住自立圏構想のビジョンに合致している事業を掲載させていただいている。この懇談会では、本市の定住自立圏構想のために必要な施策についてご意見をいただき、それを各課に下ろすことで、来年度の事業に反映したいと考えている。

委員 事業が終了したということは、ある程度目標を達したからだと思うが、成果についてはどうか。また、人口流出問題についても、具体的に食い止めるプランが必要ではないか。

座長 本来は、これまでの 5 年間の評価や成果を示す必要があるのではないか。この 5 年間でどういった点で定住自立圏構想に基づく成果がでたのかの評価が欲しい。

委員 様々な事業が展開されているが、長浜に住んでもらうための目玉となるような施策が必要だと思う。何か一つに特化した施策を行えば、全国的にも注目されるようになるのではないか。

委員 長浜市全体を農林水産、林業、商業などの分野にわけ、それぞれの分野に特化した産業を興していただきたい。また、買物、病院、学校へすぐに行けるよう、通勤圏内で一つの生活圏のブロックができれば便利だと思う。旧長浜地域と比較して、北部地域は交通の便も悪い。長浜市は観光資源が豊かであるので、その資源を有効活用しつつ、市の南北で偏りのないよう、市全体で住みやすくなるようにしていただきたい。

委員 数多くの事業が展開されているため、一つ一つの事業について意見をしにくい面があるので、特定のテーマについて提起していただければと思う

事務局 次回は、論点を整理したうえで懇談会に諮らせていただく。

委員 就学前教育について0～3歳までの環境が、まだ充分ではないように思う。働きたい方が子どもを預けられない状況にある。

小学校の放課後児童クラブについては、充実してきたように思うが、クラブ指導者の人員が不足気味という話も聞いている。

また、事業費については、極端に増加したり減少しているものについては、その理由が示されると、市民にとってより分かりやすいものになるのではないかと。

座長 第一期の成果を総括していただきたい。また、第二期については、どういった点を課題として、取り組んでいくのかを示していただきたい。

委員 どういった事業にどの程度の金額が使われたのか、示していただくことは可能か。

事務局 長浜市の全予算のうち、各分野にどの程度割当したのか、次の懇談会で示ささせていただきます。

委員 総合政策課では、より住みやすい長浜市となるよう、各課間の連絡調整などをされていると思うが、分野をまたぐまちづくりを進める観点からも、各施策間の調整をしていただきたい。

4 その他 次回の定住自立圏ビジョン懇談会については、総合戦略懇談会と併せて3月下旬頃開催する。

5 閉会